

令和 6 年 第 8 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 6 年 8 月 21 日（水） 午後 1 時 00 分
- 2 招集場所 中央公民館 1 階 会議室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、片倉亜寿香委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監、
- 5 開 会 午後 1 時 00 分
- 6 令和 6 年第 7 回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
丹羽委員、片倉委員 署名。
- 7 教育長報告
（1）一般事務報告 なし
（2）専決事務報告 なし
- 8 議 事

議案第 33 号 大河原町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について の点検及び評価について

生涯学習課長、教育総務課長より説明。

一 盃 森 委 員 | 外部評価より A または B の評価をいただき、目標から見れば達成したと思う。
収蔵室の件。展示できるような施設について、計画があるのかどうかということ。それから、ぜひ、作る計画ができれば、専任の学芸員さんを置いていただくのがよろしいのかなと思う。

現状を教えてほしい。

齋生涯学習課長 | 施設については、議員からも整備してほしい意見をいただいている。財政的な面からも複合施設の施設を作る時にとの意見もある。
文化財保護委員の先生方に助言をいただきながら、一時的な仮の施設としてプレハブの建設も含めた検討をしていきたいと考えている。

齋生涯学習課長	学芸員について、ご指摘の通り必要だとは思っているが、人事の定員管理上、学芸員の採用は難しい状況。 職員の中で学芸員の資格を持っている者がいるので、その方を配置できればと考えている。 人事サイドとの調整が必要。
丹 羽 委 員	展示する宝物等について、そのようなものをきちっと調べて、町内に果たしてどんな高いものがあるのか個人のお宅とかお寺とか。そういったものを把握して展示するときにはそれをお借りして展示するとか、そういういろんな方法があると思いますので、その辺からじゃないか。 中学生の自己評価の件。 例えば問題がある子供たちがいるとすれば、その子の問題じゃなくて良いところをどんどん見つけてあげて、先生方がその良いところを伸ばしてあげるってことはとても大事だと思う。そうすれば、自分の評価が高くなる。
舟 山 委 員	収蔵室の件。展示の方法を工夫すると、子供たちも積極的に喜んでその教材を使って授業に使用するのではないか。ぜひ、そのような展示室を実行していただきたい。
一 盃 森 委 員	学芸員さんがいた方が良いというのは、町民全体として歴史に対しての関心がだんだん薄くなってきているんじゃないかっていうその懸念がある。 普段の身近な生活の中で、普通に使っているものの中に歴史ってあるのだと思う。これは、おじいちゃんの時代の頃の道具で、それが変わってきて、これが将来的には、こういうふうになりそうだって言えば、そのような生活の中での歴史を大事にするっていうことから、何か歴史に対する興味・関心を持つと思う。
鈴 木 教 育 長	大切なものがたくさんあるので、活かせる工夫をしていただければよい。 民族資料収蔵室に関しては、3年前だったでしょうか。 文化財保護委員の皆さん中心に、博物館建設の要望書が出されて、それが議会に行って、文教厚生委員会で検討し、否決されました。 いろいろ検討してきたのが、とりあえずのプレハブの仮設の展示場。 プレハブ建てるにしても財政や土地の問題がある。なかなかうまく前に進まないが、検討していただいている。
鈴 木 教 育 長	（委員全員に諮って）可決する。 可決により、教育総務課長から今後のスケジュールを説明。

9 その他

(1) 教育長報告

1 編集手帳（読売新聞から）

(1) 「虹」

(2) 「議会見学小学6年生の学び」

議員辞職のことで、記者より、「町教委主導で、学力とともにしっかりした子供の洞察力を磨いてきた積み重ねだと思います」と評価してくれた。子供たちがしっかり見て、見たことを書く。記事のドラえもんの学習新聞記者になるというようなところでの教えの通りだということで評価していただいた。

2 いじめ問題（内外教育から）

(1) いじめ重大調査の「限界」を考える

(2) 意を尽くしても対応困難が続く保護者の背景にあるもの

いじめ問題を調査する第三者委員会には、何らの強制力も有していない。「懲戒権者は自らの権限と責任において、より慎重な事実確認を実施すべき」だと、その第三者委員会の報告書に頼るべきではないというようなことがここに書かれている。

3 学び合う教員組織をいかにつくるか（石井順治）

校内研修、授業研究の大事さというものを石井先生は言っている。「ベテランが持論を滔々と述べる協議会では学び合う学校にはならない。必要なのは他者の考えに耳を傾ける「聴き合い」である。」

全国学力学習状況調査の結果が公表となった。分からない生徒をそのままにせず、生徒同士で教え合い、学び合い、分からない子が分かるようになる授業に本気になって取り組む必要がある。

4 『「学び合う学び」を生きる』（石井順治）

まなざしについて書いている。子供へのまなざし、学習材へのまなざし、それから学びへのまなざしについて説いている。例えば、同僚に対するまなざしが重要。校内研修に必要なのは、この「一人ひとりの手づくり」の営みと、その一人ひとりを支え学び合う「同僚へのまなざし」だと考えなければならない。

5 授業改善の現在地（教職研修 2024. 5 から）

(1) 現行学習指導要領、令和の日本型学校教育、GIGA スクール構想の関係

（奈須正裕）

すべての子供を自立した学習者として育てる場を目指す。そのためには、個別最適な学びと協働的な学びの実現にほかならないと説く。

（２）変革の現在地を子どもの学びの姿で検証する（田村学）

奈須先生と田村先生の論文。学習活動の導入・展開・終末での気を付ける点を言っている。キーワードは「活用・発揮」。

6 算数・数学における「比例的推論」（算数授業研究 2024. XXI）

（１）求めたい数量と対応づけるもうひとつの数量の存在と構成を意識させよう（市川啓）

この比例的推論の考え方っていうのは、いろんなところで算数数学の場面に使う。子供たちがつまずくところを、なぜそうなるのかというところを考えていかななくてはならない、教えなければならないというような論説。

（２）「比例」に関わる問題の一考察（笠井健一）

全国学テの問題を取り上げ、分かりやすく書かれている。授業研究をする時に、非常に気を付けなければならないところである。

（３）比例的に考える場面が表れる中学校の実践事例（小石沢勝之）

小学校で学習してきた倍比例の考え方が、適用できるところと平方根なんかできないというような主張である。

7 「小学校理科と個別最適な学び・協働的な学び」（鳴川哲也他）

理科は来年度の全国学力学習状況調査の対象科目。授業について、タイプを意識した授業改善を図るとともに、過去問を授業に取り入れるなどして、指導をお願いしたい。

8 『体験格差』（今井悠介）

困窮家庭では、学校外の体験活動がゼロか、少ない状況。世帯収入の多い家庭との「体験格差」が生じていると述べている。

町内各小学校で実施している「放課後子供教室」では、子供の様々な体験活動を充実させ、体験格差が生じないような取組がなされている。非常に重要である。

9 『不登校の9割は親が解決できる』（PHP 研究所）

再登校に不可欠な「5つの条件」は、1）子供の自己肯定感を高める、2）正しい生活習慣に戻す、3）正しい親子関係を築く、4）考える時間を与える、5）しなやかな考え方を教える。など、親がここまでできたら、確かに支える人がいれば、復帰できているという事実があり、そういう支えるべきところがやはりこれから必要だと思う。

10 その他

各種事業、研修会、会議、授業の様子等について資料により説明。

丹 羽 委 員 先ほどの不登校の話。不登校に不可欠な5つの条件、これを普段の生活の中で、あるいは学校教育の中で示していただいて子供たちに納得できれば、前向きに自己肯定感を高めることができるのかなって感じました。

一 盃 森 委 員 2点ほど。1点目、議会の件で教育委員会事務局への問い合わせはどのようなものがあつたか。

2点目、石井先生の“まなざし”の中で、授業デザインの考え方。学習指導案は学習指導案。単元全体を見渡して、どのように作っていくかと考える意味では、学校の実践の中でも、そのような考え方をぜひ取り組んでいただければと思う。

子供の意見を、拾うことができても、そのことを改めて軸にして組み立て直すって、瞬時にね、これはなかなかできない。

櫻田教育総務課長 議員さんの問題についてということで、新聞報道テレビ報道あつた直後ぐらいにお電話いただきまして私30分ほど話をさせていただいた。

半分はその議員さんに対する批判であつて、もう半分は子供たちの称賛でございました。

鈴木教育長 子供に対しての批判は全くないです。

舟 山 委 員 指導案の作り方。指導案は概略がわかる簡単なものではない、これだろうと思う。先生方にもぜひ肩肘張った授業じゃなくて、気楽に「こんなふうな授業するんだけど見てもらえませんか？」っていうような形でやってもらえれば先生方自身のね、指導力向上にも繋がるのかと思つてこの指導案の作り方が一番印象に残りました。

丹 羽 委 員 子供たちの作文のことで、誰も子供たちを責めないのはとても大事なことで、子供たちを守ることは大切なことだと思う。

当たり前ですが、子供たちを責めるところは何もない。あの感想文書いた子供たちだけじゃなくて、そのことによってどの子供たちも自分の学びになつてもらいたいと思いますね。そして、それを我々が望むし、そしてどの大人も反省すべき。

全ての人が大いに反省すべきことであつて、そして大いなる学びであつて、そして今後子供たちのよりよい成長に繋げていかなきゃいけないだろうなっていう感じを学ばせていただきました。

その他として、学校教育専門監より、令和6年度全国学力・学習状況調査結果について説明。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和6年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例会教育委員会は令和6年9月20日（金）午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後3時00分

令和6年9月20日

署名委員

署名委員